

第12回・夏休み自然観察記録コンクール

身のまわりの自然をよく見て、

作文や絵にくわしくかいてみよう

伊達 佐重

だて すけしげ
1932年三笠市生まれ
学芸大学札幌分校修了
三笠市立教育研究所所員
空知教育研修センター講師

はじめに

このコンクールを始めて十二回目になった。当初は中学生も応募の対象として出発したのだが、時間や手間をかけた作品が全く見当たらなかった。三回目から小学生のみに限定した。高校受験を目前にした彼等にとって、そんな時間の余裕は持てないのであろう。

応募者数を調べてみると最小は七十二人、最大は二百三十四人で相当なバラつきがある。切り日が近づくと、出品数が気になって電話を入れるのが常である。低学年の子は、一度入賞するとその感激のせいで卒業するまで毎年取り組んでくれるからうれしい。

審査員

佐藤 謙 (北海道自然保護協会会長)
島山 武道 (同 副会長)

入賞者

金賞

秋葉 颯樹 (函館市立東山小四年)

キリギリスとトノサマバッタ

銀賞

松田 猛 (道教大付属釧路小五年)

釧路管内で僕が観察したハンミョウ

鈴木 天理 (滝川市立東小六年)

水辺の生物の研究

銅賞

三浦 菜那 (木古内町立木古内小一年)

あさがおのかんさつ

土井しおり (函館市立金堀小二年)

うちのおにわのはたけに やさいが で

きました

佐々木 望 (札幌市立真駒内緑小三年)

ゲロゲロとクワクワと ケロのかんさつ

中崎 蒼太 (旭川市立東町小三年)

夏に見つけた昆虫のかんさつ

梅田 優作 (東神楽町立志比内小四年)

自然観察をして思ったこと

渡辺 詠虹 (旭川市立春光小六年)

タニシの観察

佳作

西村 涼 (名寄市立名寄小二年)

ありのすと ありのかんさつ日記

工藤 香倫 (名寄市立名寄小二年)

すずめのの かんさつ日記

伊澤 佑佳 (森町立森小二年)

夏休み ゆうかが会った 虫たち

小原 大樹 (鷹栖町立北野小二年)

夏休み魚つり (ほかく) きろく

浦山 真実 (苫小牧市立北星小三年)

にわで見つけた たまごのなぞ

泉 珠江 (帯広市立柏小三年)

ありのかんさつじっけん

小杉 直大 (札幌市立北光小三年)

クワガタとカブトムシの観察

松永 渉 (帯広市立帯広小三年)

カブトムシについて

三島 千生 (追分町立追分小三年)

夏休みに出合った昆虫

山本高太郎 (札幌市立真駒内緑小三年)

顕微鏡で見た小さな世界

杉山 幸平 (網走市立南小三年)

はじめて見たセミの羽化

三橋 朋也 (札幌市立和光小三年)

アメンボ調べ

三島 涼花 (追分町立追分小四年)

葉っぱの図鑑

成島 純 (旭川市立西御料地小四年)

クワガタとほく

原島小也可 (道教大付属札幌小四年)

かめの次郎君が大変!

浦山 悟美 (苫小牧市立北星小五年)

ヤゴの観察

松永 滉平 (帯広市立帯広小五年)

アリの苦手な物をさがす実験

小林 勇渡 (幕別町立白人小六年)

去年は食べたので、今年は飲んでみました。

た。野草!!

坂 昌樹 (札幌市立緑丘小六年)

ミミズウォッチング

藤川 加奈 (江別市立上江別小六年)

ハクセキレイの観察日記

○学 校 賞

札幌市立真駒内緑小学校

第12回 夏休み自然観察記録 コンクール作品募集



チャレンジの成果、
待ってるよ!

募集テーマ 身のまわりの自然をよく見て、作文や絵に詳しくかいてみよう。

応募資格 道内に在住する小学生。

応募規定 応募の例として ①作文だけ ②作文と絵 ③絵だけのいずれか。画材、用紙、大きさは自由。作文は表に、絵は裏にそれぞれ応募票を張る(題、住所、氏名、学校名、学年、電話番号を明記してください)。作文はページ番号、絵には順序を示す月・日や番号を入れる。※本年度(2005年)の作品で未発表のもの。

応募先 〒060-0003
札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル
(社)北海道自然保護協会
☎011-251-5465
2005年9月15日(木) 必着(郵送か持参)

入賞者発表 11月上旬までに北海道新聞紙上で入賞者を発表し、本人または在学する小学校へ名簿を発送します。

賞
金賞 1名(賞状、図書券10,000円)
銀賞 2名(" " 7,000円)
銅賞 6名(" " 5,000円)
佳作 20名(賞状、記念品)
学校賞 数校(賞状、記念品)

応募者の個人情報は受け付け、および主催者からの通知以外には使いません。



主 催 / (社)北海道自然保護協会、北海道新聞社、(財)北海道新聞野生生物基金

審査を終えて

感動は自分の手で描こう

伊達 佐重

秋葉颯樹さんは、トノサマバッタが減りキリギリスが増えたのはなぜだろうと考えたことが出発点でした。その理由の一部がわかったようですね。松田猛さんは、ハンミョウの巣穴に草を差しこんでつり出し、飼育しながらまとめました。細かくえがいた絵は、色も線もばつぐんです。鈴木天理さんは、通う場所を水辺だけにしほって水中び生物や水生昆虫を採取し、けんび鏡で生物も調べました。六年間、虫を追い続けた積み上げが作品の中に表れています。

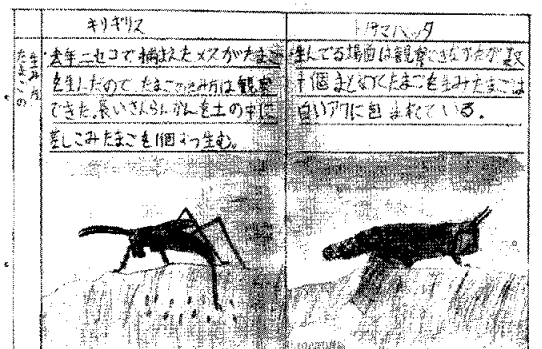
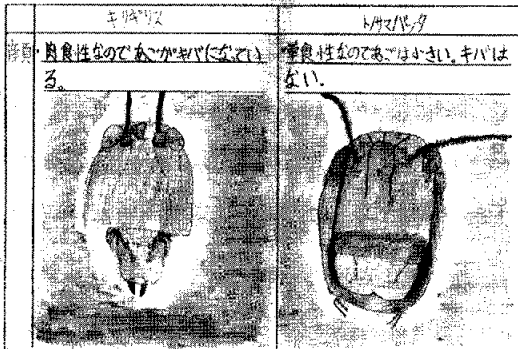
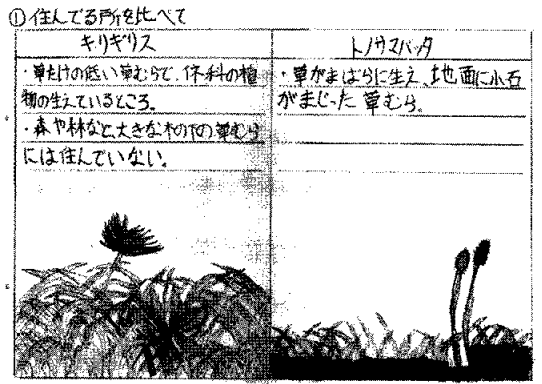
銅賞の中では、似ている三びきのカエルを体のもようでちゃんと見分けて世話をした佐々木望さん。三びきとも無事に冬越しできるといいね。タニシに取り組んだ渡辺詠虹さん。黒いえん筆の曲線だけで、貝がらの丸みやかたさが伝わってくる力作です。文章も要点をのがさずまとめられています。クワガタを中心にして昆虫の図をえがいた中崎蒼太さん。虫の体の表面と裏をかいたのは、よい思いつきでした。説明文もおもしろかったです。

今年の特ちょうは、写真を使った作品が多かったことです。以前にも注意したことをくり返しますが、写真を中心にした作品はやめましょう。絵や文の上手・下手を見ていて、自分の手でえがいた方が、感動した心が伝わるのです。来年はどんなことをしようかと思っている人は、今年の入

賞者の作品や題をヒントにして、今から考えておくといいですね。なお入賞作品の一部は、「モーリー」(北海道新聞社発行の雑誌)第十三号(二〇〇五年十二月発行)に紹介されています。

学年別応募点数

1年	8点	5年	13点
2年	24点	6年	5点
3年	32点		
4年	16点	計	98点



金賞 秋葉颯樹(函館市立東山小4年)

『キリギリスとトノサマバッタ』(モーリー No.13 から転載)